

# 01

## 犬の子宮蓄膿症

### CASE

犬 | ダルメシアン | 10歳 | 雌

病歴と主訴……………食欲低下、多飲多尿

身体検査上の異常所見……………発熱、陰部より排膿

鑑別診断……………子宮蓄膿症、下部尿路疾患

診断プラン……………スクリーニング検査としてCBC、血液凝固検査、血液化学検査、尿検査、腹部レントゲン、腹部超音波検査を実施。

### プロサイトDx 解釈

#### 赤血球

軽度の正球性正色性が認められる。網赤血球絶対数の増加は認められず、非再生性貧血と判断される。網赤血球の増加は赤血球ドットプロットでも確認できない(a参照)。

#### 白血球

中程度～重度の総白血球増加症が認められる。好中球、リンパ球、単球にはアスタリスク(\*)が付いており、ドットプロット上での白血球細胞の分布異常を第一に考える必要がある。この場合、プロサイトDxにより提供されている各白血球数を完全に信頼することは危険である。白血球系細胞ドットプロットでは、好中球細胞群が上方に移動しており、一部の細胞はリンパ球や単球細胞群との境界が不明瞭である(b参照)。このような所見が認められた場合、血液塗抹による評価が必要となる。

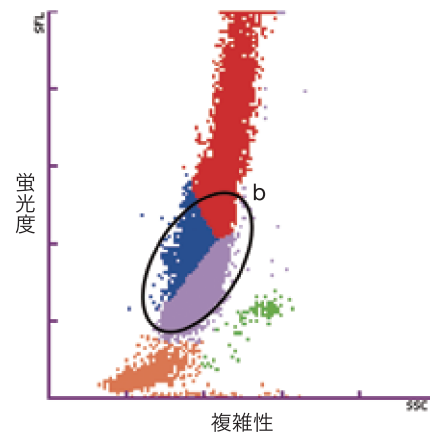
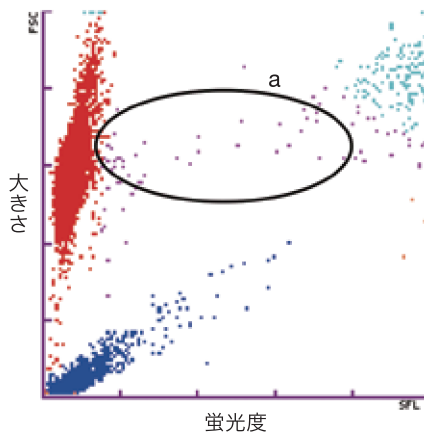
#### 血液塗抹から求められた各白血球数

桿状核好中球……………7,610/μL  
 分葉核好中球……………41,550/μL  
 リンパ球……………1,860/μL  
 単球……………5,780/μL  
 好酸球……………250/μL  
 好塩基球……………0/μL

#### 血小板

血小板は、軽度増加しているが、血小板系細胞ドットプロットの分布異常は認められない。

検査項目	検査結果	基準値	低値	標準	高値
<b>プロサイト Dx</b>					
RBC	4.69 M/μL	5.65 - 8.87	低値		
HCT	31.3 %	37.3 - 61.7	低値		
HGB	11.2 g/dL	13.1 - 20.5	低値		
MCV	66.7 fL	61.6 - 73.5			
MCH	23.9 pg	21.2 - 25.9			
MCHC	35.8 g/dl	32.0 - 37.9			
RDW	14.9 %	13.6 - 21.7			
%RETIC	0.34 %				
RETIC	15.9 K/μL	10.0 - 110.0			
WBC	57.05 K/μL	5.05 - 16.76			高値
%NEU	*54.2 %				
%LYM	*18.1 %				
%MONO	*27.4 %				
%EOS	0.3 %				
%BASO	0.0 %				
NEU	*30.95 K/μL	2.95 - 11.64			高値
BAND	*suspect presence				
LYM	*10.32 K/μL	1.05 - 5.10			高値
MONO	*15.62 K/μL	0.16 - 1.12			高値
EOS	0.10 K/μL	0.06 - 1.23			
BASO	0.00 K/μL	0.00 - 0.10			
PLT	500 K/μL	148 - 484			高値
MPV	9.8 fL	8.7 - 13.2			
PDW	13.6 fL	9.1 - 19.4			
PCT	0.37 %	0.14 - 0.46			



### 血液塗抹所見

・赤血球系細胞では軽度の貧血が認められるものの、多染性赤血球の出現は認められず、非再生性貧血と判断される。また、赤血球形態に大きな変化は認められない。炎症性白血球像の存在を併せて考慮すると、慢性炎症に関連した非再生性貧血と考えられる。

・白血球系細胞では中程度の左方移動や中毒性変化を伴う成熟好中球増加症が認められる。また中程度の単球増加症も認められる。その他の白血球系細胞に異常は認められない。血液塗抹評価による各白血球数は左ページの通りとなる。

・血小板は塗抹上でも増加していたが、その形態に異常は認められない。血小板増加症は炎症に関連した変化と考えられる。

### その他の検査所見

血液凝固検査(PT、APTT)：異常は認められなかった。

血液化学検査：内因性グルココルチコイドの影響と思われるALPの増加が認められた。

尿検査：多数の白血球が観察され、少数の細胞には細菌の貪食像が認められた。

腹部超音波検査：下腹部に液体貯留を伴う巨大な子宮を確認。

### 診断

子宮蓄膿症

### 治療及びモニタリング

麻酔下にて子宮卵巣摘出術を行った。



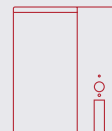
## アスタリスクの存在

各検査項目におけるアスタリスク(\*)の存在は、その検査項目がプロサイトDxでは正確には行われていない、もしくは測定できない可能性が考えられる。特に白血球系細胞

にアスタリスク(\*)が認められた場合、機械による白血球分類は不安定となるため注意が必要である。この時には、必ず血液塗抹により白血球分類と、その形態の再評

日々の診療に役立つ  
プロサイトDx 解釈のポイント

01



価をする必要がある。また、左方移動存在の表示が出現しているときには、好中球の左方移動だけでなく中毒性変化も併せて確認する必要がある。

検査項目	検査結果	基準値	
NEU	*30.95 K/ $\mu$ L	2.95 - 11.64	高値
BAND	*suspect presence		